

自転車安全利用促進のための安全教育用教材の開発

宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科 大森宣暁
 (株)三井住友トラスト基礎研究所 NPO法人自転車政策計画推進機構 古倉宗治
 Wa-Life Labo 自転車安全サポート委員会 自転車安全利用コンサルタント 北方真起

背景と目的

近年、環境にも健康にも優しい都市内交通手段として、世界的に自転車利用が見直されている。しかし、我が国では他の先進諸国と比較して、自転車走行空間の整備が遅れており、自転車の交通事故が課題となっている。安全・安心・快適な自転車利用環境の実現のためには、自転車走行空間の整備のみならず、自転車利用者のルール順守およびマナー向上が求められる。本研究は、通勤・通学者、子ども、高齢者、子育て世代など、多様な自転車利用者の特性に応じて、適切な自転車安全教育のための教材を開発することを目的とする。

研究の方法

- ①既存研究および教材のレビュー：自転車交通安全教育に関する既存研究のレビューとともに、既存の自転車交通安全教育のためのパンフレット等の教材を収集し、整理を行う。
 - ②対象者別の教材内容の検討：①の整理に基づき、通勤・通学者、子ども、高齢者、子育て世代などへのヒアリング調査も行った上で、多様な自転車利用者の特性に応じて、適切な自転車安全教育に必要な教材内容を検討する。
 - ③教材の作成：②の検討結果をもとに、教材を作成する。本教材は、イラストや写真等を活用した紙ベースの冊子を基本とするが、Web上で閲覧できる教材についても検討を行う。
 - ④教材を使用した安全教育の実施：開発した教材を使用した自転車交通安全教育を実施し、合わせて安全教育の効果検証も行う。
- ※本年度は、子育て世代を対象として「子ども乗せ自転車」安全利用教材を開発した。

教材開発の視点

- ・未就学児（0歳～6歳未満）の保護者を対象。
- ・子どもが一人で自転車に乗るようになるまでに、保護者が自転車のルールやマナーを教えられる内容。
- ・客観的なデータに基づき、「子ども乗せ自転車」利用に関するルールやマナーの根拠を理解できる内容。
- ・Web上の追加情報へもアクセスできる。
- ・自然と手に取ってもらえ、可愛くて、大事に保存したくなるもの。
- ・インパクトがあるデザイン。

教材の構成

1. 自転車を選ぶ時のポイント
2. 危険行為の注意
3. 雨の日の運転
4. 事故にあわない・起こさないためのポイント
5. ヘルメット着用と保険加入

成果の地域活用

本研究で開発した教材を、子育て支援施設、保育所・幼稚園、乳幼児定期健診や自治体のイベント等の機会を利用して、子育て世代に対する子ども乗せ自転車安全利用のための教育を行うことで、安全・安心・快適な自転車利用環境の実現に貢献することが可能であるものと考えます。また、通勤・通学者、子ども、高齢者向けなど、多様な自転車利用者の特性に応じて、適切な自転車安全教育のための教材開発も行うことを考えています。

参考文献

- 1) 古倉宗治, 大森宣暁, 佐藤利明, 吉川泰生: 自転車のルール遵守意識と教育啓発内容の有効性, 土木学会論文集D3 (土木計画学), Vol.73, No.5, pp.1_693-1_703, 2017.
- 2) 岡安理夏, 大森宣暁, 長田哲平: 子ども乗せ自転車利用環境改善のための情報提供および安全教室の効果, 土木計画学研究・講演集, 55, CD-ROM, 2017.



図1 開発した教材（実際の大きさはA5版4ページ）